

外部評価コメント

柱 1

方針（1）学習プログラムの提供や情報の提供・相談の充実

指標 1 地域生活の課題に関する学習プログラムの提供数

- ・情報も含めてどれだけの学習プログラムを提供したのかが問われているのに「生涯学習メニューブック」への掲載件数のみで評価するのは適切でないと思われる。メニューブック以外にも情報提供はされていると思われる
- ・生涯学習メニューブック掲載に係る照会の方法、例えば時期や講座の内容ではなくてもっと答えやすい内容にするなど工夫が必要ではないか
- ・青森の事例だが、民間のカルチャーも含めて協議会を作り、そこで有料も無料も多彩な内容の学びの情報ブックを発刊していた。

指標 3 心のバリアフリー啓発セミナー受講者の意識啓発の割合

- ・実践したいと思う割合が、平成 25 年度 24%から次年度以降急激に上がっているがこれは、アンケートのサンプル数の違いによるものではないか。
- ・また、指標に従った評価であれば、A評価だが、参加者が少ないなど改善点はある。

指標 4 那覇市生涯学習情報提供システムにおける生涯学習資源の活用館数

- ・フェイスブックなどのSNSで広報すると、新たな顧客層やリピート率も高くなるが年齢層など限定的な広報になる可能性がある。従って、今後とも紙媒体と両方やる必要がある。

方針（2）人材育成の充実

指標 5 生涯学習に関する研修数と指標 4 関連

- ・職員研修の中にSNSを活用した広報研修を入れてはどうか。

方針（3）NPO、高等教育機関、企業とのネットワークづくり

指標 9 本市公民館及び本市立図書館への指定管理者制度導入の館数関連

- ・導入後、市民サービスが向上したのかを評価する必要がある。

指標 10 商店街事務連絡会の開催数及び運営の充実関連

- ・観光客が増えているなかで、気軽に語学が学べる場の設定など、企業が受益者側としてネットワークに入る場合も考えられる。

指標 11 なは女性センター利用者数と指標 1 関連

- ・実績値が年次ごとに落ちている。その都度対策をたてる必要があったのでは。

外部評価コメント

柱2

方針（1）学校区域を拠点としたコミュニティづくり

指標 13 学校施設開放運営委員会設置数及び地域学校連携施設利用者数

・施設の複合化を狙いPTA や児童クラブを中心にとあるが、どういうことを指しているのか。児童クラブは有料、学校施設は無料。現場の人が理解しておらず無理があると感じる。

指標 14 学校体育施設開放の利用者数

・体育館工事で、施設利用できないことが明らかなのに目標を変えないことに疑問を感じる。内部評価で、関係施設と建て替えについて連携を取ることを課題としているが、事前に建て替えがわかっているなら関係施設との連携、体育館の建設予定確認しながら目標設定する必要がある。

方針（2）家庭教育力・地域教育力の充実

指標 20 放課後子ども教室実施校区数・教室数

・子ども教室自体が、昨年度とあまり変化がないのは地域の指導者が育っていないからではないか。

・子ども教室の運営はうまくいっているところとそうでないところの差があるため、うまくいっているところの運営を取り入れてほしい。

指標 21 やる気・元気旗頭フェスタ in なはの参加児童生徒数

・参加人数が減っているが、地域によって参加の片寄りがあるか？

・立ち上げは学校主体だったが、学力向上で学校の先生の負担が多すぎる。主体を地域におろすなど方向転換するなら、めざそう値を変えていく必要がある。

・指標が参加児童生徒数となっているので、運営主体の多様性や運営に関わっている地域の方々の数と指標設定したら成果が表れると思う。

方針（3）児童生徒・若者の自立支援のための事業の充実

指標 23 若者自立支援サポーター養成講座の数

・指標にある自立支援は、身体的な支援が必要な方が、ひきこもり等についてなのか。

・自立支援サポーターの数を増やしたいとあるが、誰に（学校関係者、民生委員）に支援してもらいたいかわからないため講座が開催できないのではないか。

・自立支援講座は、ククルなど民間やNPO等に相談して委託すれば講座を開催できるのではないか。

・生涯学習課に自立支援そのものの専門性は必要ないが、自立支援の本丸にあたるので養成や判断の専門性が無いのはありえないし、できない理由にならない。主管課を変えるなどして講座を開催すべき。

・次年度は自立支援サポーター養成講座を開催するのか。

外部評価コメント

・指標について予算計上していないなら、別のセクションに働きかけて、事業の重要性を伝えサービスしていく必要がある。

・若者自立支援は、ひきこもりなどあるから福祉部門とも協力した方がいい。

・公民館の取り組みとして、石嶺公民館で発達障害の親をサポートする取組、繁多川公民館でサポステや罰則で高校に行けない真和志高校生に公民館の掃除、手伝いをさせる取組があるので、自立支援の一環として取り入れたほうがいい。

指標 25 小中学生が参加できる講座等の件数

・めざそう値の評価の対象は講座の数だけで、講座の質は評価されていない。

指標 26 那覇市児童生徒県外交流事業参加数

・県外派遣が廃止なら久留米市からたくさん子どもたちをむかえて交流しているので、そのことを評価に生かせないか。

・指標の主旨は県外交流事業となっているので、派遣のみでなく受け入れもある。

・派遣はないため評価が C となっているが、久留米市から 100 名受け入れをしているのでまったく事業をやっていないことにはならないのではないか。

・指標について、次年度は指標を受入れも含めるなら外部評価は B としていいのではないか。

・行政の評価として、県外に児童を送った数を出したいだろうが、久留米市から多くの子どもたちを受入れて那覇市子どもたちと交流しているのが大きい成果と思う。

・久留米市から来ている子どもたちの数をさかのぼって出してもらいたい。

・県外交流で何をしたかは評価に入っていない。

柱 3

方針（1）歴史・文化資源等を生かしたまちづくりの推進

指標 27 文化財展示会・解説会の観覧者数

指標 28 歴史・文化講座（首里大学）の受講者数

・指標 27 で、平成 26 年度と平成 27 年度で参加人数が大幅に増加しているが何か広報、募集活動をしたのか。

・指標 27 は現地での説明会、指標 28 は高度な講演だが、実績を増やすため内容のレベルを下げる傾向になっても困る。めざそう値を低めに設定して、レベルの高い講座を確保することも大切である。

・指標 28 は、めざそう値と実績値の割合が 0.76 となっているのに外部評価が C となっている理由は。

・指標 28 はめざそう値が現状値を下回っているのに、課題は会場の関係上人数制限があるとのことだが、課題の認識がずれているのか。以前は違う場所で行っていたものができなくなったのか。

外部評価コメント

指標 29 出前こども博物館の講座数

- ・開催数が、小学校3、中学校1、児童館1、体験教室2で開催数が少なく評価がCとなっている。那覇市は児童館が11あるが、1館しか開催されてない。児童館は時間が取れ、子どもが集まる利点があるのもっと声をかけると取り組みやすいのではないかな。
- ・出前こども博物館は学校が希望しても職員の都合で断ることもあるのか。

方針(2) 市民との協働による地域特性を生かしたネットワークづくり

指標 30 史跡めぐり案内講師「案内親方」・識名園ボランティアガイド「識名里主」の利用回数

- ・識名園は観光客が多いと思うが、ガイドを頼まないのか。
- ・新規ガイドを養成する講座をここ数年やっていないと説明があったが、この事業の主管課にもっと頑張ってくださいと働きかけるにはどうしたらいいか。
- ・新規ガイド養成講座をやっていなければ、ガイドが減っていくので計画的にガイドの養成が必要である。

指標 31 地域団体及び壺屋焼物博物館友の会との共催事業数

- ・博物館を中心とした近隣事務所との事業として5件実施とあるが、壺屋焼き通りの皆さんの自主的なイベントなのか。

柱3

方針(2) 市民との協働による地域特性を生かしたネットワークづくり

指標 33 那覇市青年団体連絡会との調整会議の開催数

- ・実績値がめざそう値からだいぶ遠ざかっているが、調整の必要がないくらい意思の疎通ができるということか。
- ・青年がいなくなる状況が多い現在に、青年団体が増えるのはすごいことであるため応援したい。
- ・調整会議が開けるのは、意思の疎通ができていると思うので外部評価をCからBにした方がいい。

指標 34 那覇市婦人連合会芸能大会への参加婦人会数

- ・めざそう値と実績値が同じだが内部評価がBとなっているのは会員数が減少しているからなのか。
- ・団体支援ができてないから内部評価を下げるというのはストイックと感じる。もっと頑張りたかったのはわかるが、めざそう値が記されていると理解すると、指標34はめざそう値と実績値が同じなら目標達成とするべきではないか。内部評価の時に各セッションで評価は平準化されていないのか。

外部評価コメント

その他

- ・ 指標設定は難しい。数えやすいものをあげたくなるが、それが実態を表すわけではなく増えることが必ずしもいいとは限らない。
- ・ 外部評価にあたり生涯学習推進協議会で事業名、指標そのものを変えるのではなく、事情を勘案して外部評価を決定していく。
- ・ 人口が下がっている中で過剰なめざそう値設定や現状値を下回ったからダメと数字だけで評価せず、内容も勘案して評価や計画を立てる必要がある。
- ・ 行政の計画であることだが、柱を実現するために建てられた方針、方策が柱の実現に向かっているか。指標を達成して、方策が達成され、方策の達成で方針が達成されて本当に柱が叶うのか検討が必要である。
- ・ 評価にあたってめざそう値だけでなく成果も評価する必要がある。推進本部のレベルで単発の事業だけでなく、事業と事業の間で相乗効果が出るような取組ができるのか、次期計画に向けて考える必要がある。